

3月のくらし

家族計画普及運動
春の犯罪予防

広報かわにし

発行人 町長 所者長 川西町 川西村 町役場 西吉 編集所 星白 1 四風 5 郎社 円

人口の動き
3月1日現在
男 6,611人
女 6,905人
計 13,516人
世帯数2,699世帯

部落総出の雪上運動会

長い冬もあと少し、ワラ仕事も一段落した。野良衣(着)の仕度もできました。老いも若きも村の広場にあつまれ、きようは農休日の雪上運動会、カンジキはいてヨーイドンオツカサンがんばれ、アネサまけるな、小さな楽しみもみんなでわけあつて大きな喜びとしよう。休んで楽しんでエイ気を養つてあと大いにかせごう。あちこちの部落でほがらかな笑いがひびく、雪上運動会たけなわです。
(伊友で写す)

新生活運動写真シリーズ



三月の行事

- 一日 恩給組合町長新潟市
- 三日 給食施設試食会
- 五日 保育園会議
- 六日 町会
- 七日 常任委員会
- 八日 県農業会議 町長新潟
- 九日 県農業会議 町長新潟
- 十二日 県農業会議 町長新潟

学校周辺

周辺というとおかしいかもしれぬ。学校教育の動向というか、町でも仙田中の第二分校が独立して、四月から白倉中学校として発足するし、昨年十一月に開始した千手小の完全給食が軌道にのってつい最近、校区の感謝試食会をやると、ここでは、川西中と橋中が未実施のミルク給食の全面実施がミルク代と設備費の国庫補助によつてできるかどうかといった状況もある。小学校の新一年生に対する教科書の無償給与もさまたし、川西中はこ

町づくり

と、年次計画による統合校の建築も完成する。いろいろ数え始めるときりのないはなしになるが、とにかく、内から外から教育事情がどんどん変わってゆくのは異論のないところ。そして変わりつく究極の地点というものは、完べき義務教育が行なわれることにつぎはらずだ。

高校生の急増対策も社会問題となつてくる。ここ数年、町全体の進学率は、もっともとのびる余地のある数字でなければならぬ。また、新入生の健康診断で各学

十三日 町社会教育委員会

十四日 町公民館審議会

十八日 赤十字学区長会議

十九日 彼岸入り

二十日 中学校卒業式

二十一日 町会

二十二日 春分の日

二十四日 町民演奏大会

二十五日 千手小 卒業式

二十六日 保育園終了式

全日進学率をみると、三十四年度十九、七・三十五年度十三、八・三十六年度十九、六・三十七年度は希望者数で二十九、七(いずれもパーセント)という数字があらわれている。

この進学率をみて、単純に将来の高校進学希望者の数をほじきたすわけにはいかないが、こころみに、三十八年度以降、中学卒業者の三十三パーセントは進学するとみ

で、その人数を計算すると、三十八年度(三十九年四月初)一、二五〇名、三十九年度一、二二〇名、四十年度一、〇七〇名、以下、九一名、九六名とつづけている。十高と実業高

校ひっくるめた数字上のことだから何とも言えない。それにしても、優に一学年二学級編成の数字だし

だいたい、三十パーセントとみた進学率は、もっともとのびる余地のある数字でなければならぬ。また、新入生の健康診断で各学

校をまわってみたら、四月にそろって就学することもちだちでも、平

場校とへき地校では、一見して、精神的にも肉体的にも差のあるのがわかって、これも学校をかた

るときき落せない問題だと思つた。

川西中体育館建築を議決

予算編成上の懸案事項を審議

本年度第二回目の臨時町議会は、二月十二日に招集、会期二日で議案八件、請願八件を議了した。

議案八件のうち、一件は議員提案の常任委員会及び特別委員会条例の一部改正案、他の二件は、川西中学校体育館建築と、白倉小中併置校を設置する旨の事件決議、残る五件は給与関係の条例改正である。

これらは、いずれも新年度予算編成の前提となるものであって、この臨時会は、これらの懸案事項についてはっきりした結論を得た上で本格的に三十八年度予算に取り組むために招集したものである。

四四五坪の鉄骨鉄筋建て

体育館建築に協力を要請

三年目を迎えた統合川西中学校の建築工事は、いよいよ最後の、そして最大の建築規模となる体育館がここの課題となっている。これには、四千万という巨額の工費が必要であること、構造の面からこれを二カ年に分割して建築することが困難であること、補助・起債が少ないこと等から容易でないものがある。したがってこの問題についてはっきりした方針を打ち出すことが新年度予算編成の前提となるので、この議会において正式に事件決議を求めたわけである。

提案された建築計画の概要は、次のとおりである。

体育館の本館は間口十五間、奥行二十四間の鉄骨鉄筋コンクリート建てで、これを旧千手中学校舎の一部を移築した北側へ県道とほぼ

くりであるが、「何ものもみんな犠牲にして学校を作るくらいならだれでも作られる。そういうことをしてはいけないところに困難性があり、また議会の方々の全知全能を發揮してもらわなければならぬゆえんがそこにある。」という中村町長の決意を了として、この案は全会一致可決された。

給与関係条例を改正

三十八年度予算編成の前提となる懸案事項として、外に給与問題がある。これは、昨年八月に出された人事院勧告により、十月一日から施行の予定であったところ、国会における石炭問題等で延び延びになってしまったもので、今回県の指示によりようやく具体化の運びとなつて、提案されたものである。給与についても、一般職、特別職、議員等の区分によってそれぞれ別個の条例によって定められているので、都合五件の条例改正案が上程され、それぞれ次のとおり可決された。

議員報酬	月額	一〇〇〇〇円
議長		八〇〇〇円
副議長		七〇〇〇円
議員		七〇〇〇円
△三役給与		
町長		五五〇〇〇円
助役		三七〇〇〇円
収入役		三五〇〇〇円
△教育長		三三、三〇〇円
△一般職職員		
平均一〇パーセントの上昇を規定した給料切替表を含む給与条例の改正を行ない、これに基づいて		

二月二十七日に辞令交付を行なった。以上のほか期末手当支給条例の改正がありこれらはいずれも十月一日にさかのぼって適用される。

白倉小中学校を設置

川西中学統合完成に引きついで、仙田中学校の分校統合の話合いが進行している。ことしは室島の第一分校を統合することが課題となつているが、白倉小学校と併置されている第二分校については、距離や通学道路の条件等からこれを早急に本校へ統合することは到底望めない。県教育委員会の認可を得て、本校から切り離し、白倉小学校とあわせて白倉小中学校を設置することとなった。

これによって、一人の校長の下に小中学校が管理されることとなり、なお、独立校となるので教員の配当も従来の分校当時より二名増員される等、教育効果があるものと期待されている。その時期は四月町議会報告②

予算議会招集

一億五千万の一般会計を上程

三十八年度の予算を審議する定例町議会は三月六日に招集された。会期は二十日までの十五日間の予定である。この定例会には三十八年度一般及び特別会計案件とこれに関連する多数の案件を審議する最も重要な議会であるが、特にことしは川西中体育館建築等の大事業をかかえて、予算編成には例年ない困難が伴い、二月以来、県当局と協議折衝を続けて、よろ

月一日からとなつており、議会で満場一致これを可決した。

ナメコ加工等 請願八件を上程

この臨時会において受理上程された請願は、次の八件で審議の結果、即日採択二件、継続審査五件審議未了一件となつた。

△高倉部落字倉下開田助成に関する請願(継続審査→産建付託)

△新潟県労働金庫予託請願(審議未了)

△町道高倉小脇線開削に関する請願(継続審査→産建付託)

△沖立大坂新道の補強に関する請願(継続審査→産建付託)

△ナメコ加工施設増強に関する請願(継続審査→産建付託)

△伊友消防ポンプ新規購入配置方請願(採択)

△通学道路中仙田越ヶ沢線一部改修工事に関する請願(継続審査→産建付託)

△取安川耕地災害復旧事業費分担金免除に関する請願(採択)

ふるさと

農業構造改善十九年計画。アメリカの百姓一人の生産額を日本では二十人、三十人とかかつてよくやく生産している。農業は企業としてなりたつて、等毎日の新聞は農家の私どもにシヨツキングな問題をとりあげていない日とありませぬ。川西農業平均耕作面積五、四〇〇ヘクタール。粗収入二十七万円とやら。でもめんどろなことは男衆にまかせて女はいわれたとおり草取りでもしていることにしよう、といつて見ても、家計簿のしめくり、毎日の生活費のやりくりはしなればならず、妻有のかあちゃんも好むと好まざるにかかわらず自家の職業たる農業をみつめ、頭を切りかえるべき時が来たようです。大根の間引き一つでも間隔はかりが大切なのではなくて、二葉の開き加減、根の方向の見わけ方一つで商品価値のある大根の生産がきまるとか、何年も汗にまみれて働いた百姓業でありながら農の基礎学習はおろそかでした。農業の第一歩から勉強しよう。専門家の指導のもとにこの一年この手がどれだけの収入をあげうるかをやってみよう。自分の名前を書かれた実習畑を耕してグループを作ろう。手をたないで考え合おうではないか、夢のあるおあちゃん農業はできないものだろうか。雪消えを前に上野地区でこんなおあさんのグループが誕生すべく目下有志が話し合いを進めています。「おあちゃん実習畑」に芽ぶく日も近いと思われまふ。町内のみならずご支援ください。(A)

雪男の怒り

雪男さん、先母のこの欄をご覧になったあなたが、「孤立と雪男」と題してお寄せくださった長文の投書を拝読しました。ふたたび雪の問題をとりあげるのほどどうかとも思いましたが、あなたの文面に感激したわたくしは、またまたこの問題をとりあげずにはいられない気持ちになってしまったので、以下、あなたのご意見を要約して、全町のみなさまにお伝えさせていただきます。ここにいたします。

「大雪に拾う」を読んだ。筆者よ、なぜもう一押し押ししてくれなかったのか。私はここに改めてその怒りを率直にぶちまける。その天災には二つの型がある。その



社会教育

一つは台風や地震だ。一瞬のうちにも甚大な被害を与えて通り過ぎてしまい、その惨状は言語に絶するもう一つは雪。これは全く合法的で、降雪量を気象庁が正確に予報してくる。数百万人のスキーヤーを喜ばせ、電力に欠くことのできない資源を連山に貯蔵する。被害どころか、むしろ、枯木にみごとな花を咲かせているではないかこの花が一部の地域に集中降下するため、人間どもが除雪にこと欠き豪雪と名づけて右往左往するだけのことである

然と責任のがれをしていた。無対策ぶりをしつによくさらけ出してくれた。被害甚大の責任が一部の首脳者にあったことは明白である同じ豪雪地域内にあって、幾百年間孤立の体験を克服してきたわれわれ雪男は、いや、住民は絶対になさわがなかった。救援も求めず、に家の雪崩りをし、

川西町に母子年金第一号

昨年五月からの支給開始に伴い、このほど川西町にも拠出制母子年金支給の第一号が決定された。大白倉のAさん(四十三才)は昨年十一月病氣により夫を失い長男(十九才)次女(十三才)と三人、突然迎えたさびしい悲嘆の毎日、ともに寄り添い励まし合ってあすからの厳しい生活へと向つたのであるが、そこへおとすれたのが国民年金の支給通知であった。

Aさんは拠出制年金が始まって以来、毎月分キチンと保険料を納めていたからです。夫が死亡した前の基準月(九月)まで一年六カ月間、二千七百円の保険料納入により、十二月から年一万九千二百円の母子年金を次女が満十八才になるまでの六年間受給できるわけである。

去る一月二十六日めでたく証書の授受を受けたAさんは「心の寄りどころとしてさらに元気がなほります」と、うれし涙を浮かべていた。

(写真は、第一号の拠出制母子年金の証書を受けるAさん)

たどしたら、その罰則はじつに重いのですぞ。それなのに、一日数百本の列車が止まっても当然のこととみなされ、いっこうにその責任が追究されないのは、災害として処理する当局の怠慢であることと強く指摘したい。政治の貧困に便乗し、豪雪と名づけて国民をあざむくことはなほだしい。

親愛なる川西町民各位、選挙こそがわれわれの宿願を達成する最大のチャンスなのだ。きたるべき統一地方選挙をして、不動産の草刈り場の汚名を残すことのないようにしたい。豪雪地に住むわれわれのわざわいを転じ、政治の恩恵で近代農業を作り出すために、われわれは、出たい人よりも出した人を出さなければならぬ。

(仙田・室島・雪男)

固定資産課税 台帳を見に来てください

三月一日から三月二十日までの間、つぎの場所で固定資産課税台帳を関係者の縦覧に供して異議の申し立てをうけつけることになっています。ことしは前年の評価額がすえ置きになっています。したがってこの一年間に異動がなかった場合は昭和三十七年度分と全く同じ価格です。

記
(縦覧場所)
川西町役場一階 (税務係)
午前九時より 午後五時まで

豪雪と

災害救助法

六住宅の応急修理
1 住家の半焼半壊によって日常生活ができず、しかも自らの資力では応急的修理ができない者。
2 経費 一戸当三三〇〇〇円以上
七 学用品
1 災害により学用品をなくした者
2 経費 小学生 三二五円
中学生 三六〇円
八 救出 実費
九 埋葬 遺族の手で埋葬を行なう余裕のない状態の場合
大人 一件当り三二〇〇円以内
小人 一件当り一八〇〇円以内
〇、死体の捜査・処理 実費
一、救助のための輸送・人夫賃など 実費

災害救助法のあらましは以上のとおりです。災害の予防対策は町でも現在検討中ですが、基本としては、昨年七月十日施行になりました、災害対策基本法を中心として、その対策をたてることになっています。

昭和三十八年度川西町 大工日雇賃金 決定のお知らせ

川西町大工組合より、新年度の日雇賃金が、役員会総会を開き、県の基準に基づいて左記のとおり決定したので、町内に通知願いたいとの申し出がありました。

金 一、三〇〇円
(川西町大工組合協定賃金)

防災計画のあらまし
一、防災施設の新設及び改良
二、防災のための調査研究
三、教育及び訓練その他の災害予防四情報収集及び伝達
五、災害に関する予報または警報の発令及び伝達
六、消火、水防など事項別の計画
以上のような計画をたてて、災害発生時にスムーズに措置できるようにしなければならぬことになっています。

なお、春の火災予防運動を新潟県では四月一日から実施することになりました。一年中で火災の最も多い季節ですから、火の元に十分ご注意ください。

なお、仙田地区は地域差や昨年の賃金との関係もあって、仙田地区組合の協議の結果、町大工組合の決定額と左記のとおり、若干の差がついていますのでお含みください。

(仙田地区木工労務者組合 協定賃金)
金 一、二〇〇円 手食一日賃金
一五〇円 一時間賃金
二〇〇円 食費
七〇円 食費一食分

千手城と城主

千手の城山といえは、こどものころの秋の遠足にはきまってるに、スに組み入れられたなつかしい山である。

ところが、城山といっているが、いったいどこにあった城の名は何というのかと聞くと、いまだにだれも答えてくれない。上野には節黒城、中条は大井田城と固有の呼び名があり、十日町市城之古(たてのこし)には琵琶懸城(びわかけじょう)という優雅なものまであるのに。

そして、ここに居を構えた城主の名も、まことにアイマイであって、事蹟を調べるにもちよっと手のつけようがないのは残念なことである。

城あとは、名寺長福寺の裏山の頂上に、たて二百米余りよこ百米くらいの範囲に、多くの空壕をもった姿を残している。節黒城などと同じく南北朝時代から室町時代にかけての形を多く残している。典型的な山城である。

城主は、まず梁田藩守正則の名が伝えられ、建武年間(六百三十年くらい前)の築城で、まもなく延元年中に足利軍勢のために敗れこわされてしまったという。節黒城の支城であったと思われるので、この話はそのまま納得できるが、梁田氏がどんな人であったかを知る術がない。

梁田氏没落の後二百年経った永禄二年(四百九年くらい前)に、時の城主下平吉良が長福寺へ土地五百五十列を寄進したという記録がある。

ふるさとをさぐる ⑥

ある。この城主に関する記録はいくつか残っていて、その名も下平修理太夫吉長とか、修理亮吉長とか、下平勘助などと記されているが、いずれも同一人である。

信州東筑摩郡から出て、その発生地が今井という地名であったためはじめは今井氏であったようである。南魚沼上田辺から千手城へ移って来たものらしい。

だが、以前に上野村の村名と上野氏の名についてちよっと触れたけれども、今井氏が千手へ落着いてなげ下平氏を名乗ったか疑問である。何故なら、住んでいる地名を姓に転用するならば、彼の住居を構えたところは下平でなければならず、千手城内で下平の地名をもつところといえは現在の発電所附近であることになってしまう。千手城と発電所を結びつけて考えることは、いまの段階で判断に苦しむことが多いので、町内の皆さんからご意見を伺いたいものだ。

上杉謙信の時代は、上野氏とともに下平氏も幾度か合戦に加わった。同じ一族でもあろうか下平右近亮という名が功名帳に見える。しかし、謙信没後の家督争いは、敗れた景虎方に味方したため(注、上野氏と敵になった)、千手の地を追われて、北浦原郡の笹岡城へ移っていった(天正六年)。ここでは再び旧姓の今井氏を名乗り、「中魚沼郡誌」によれば今井源右衛門園広が長福寺へ土地を寄進したとあるから、父吉長の位牌があるので、菩提を葬るためであったことだろう。

ある。この城主に関する記録はいくつか残っていて、その名も下平修理太夫吉長とか、修理亮吉長とか、下平勘助などと記されているが、いずれも同一人である。

戸籍の窓から

うぶ声—御すこやかに

数藤	勝夫	一男	長男	沖立	
平野	一幸	鶴吉	長男	四郎兼	
喜多	信子	善二	二女	四郎兼	
高藤	由美	充	長女	中央町	
丸山	和仁	勇	長男	木島	
水品	美和	子	力之介	長女	三領
小海	昭浩	敬太	三男	小根岸	
藤巻	久美	子	優	長女	塩辛
小幡	義晴	藤策	長男	仁田	
野沢	藤洋	力男	長男	野口	
丸山	浩明	久一	二男	根深	
田中	久美	子	久義	長女	下原
須藤	栄	誠	一長男	下原	
登坂	栄一	求	長男	岩瀬	
登坂	清美	敬	長女	岩瀬	
川崎	美智子	政直	三女	越ヶ沢	
小川	浩明	昭一	長男	越ヶ沢	
星名	輝男	得司	二男	越ヶ沢	
高橋	和枝	庄三	長女	高倉	
小林	和博	勇一	長男	中仙田	
中村	邦子	二女	大白倉		
平賀	三枝	子	貢	長女	野口

清水	良策	中屋敷	六三	
渡辺	大六	中島町	七二	
五十川	信二	沖立	六八	
上村	孫七	上野	七二	
田村	トウ	上野	七三	
星名	洲治	上野	七九	
小幡	リタ	木落	七一	
片桐	サイ	木落	六九	
田中	リセ	仁田	八四	
田中	久美	子	下原	〇
野沢	惣六	仁田	七五	
登坂	松太郎	赤谷	八四	
登坂	清一郎	岩瀬	六三	
金子	喜一郎	岩瀬	六六	
川崎	ハル	桐山	六三	

町民娯楽大会

一月七日 微笑は人生を照らす日光である

町民娯楽大会は三月二十四日(日)に例年の町民娯楽大会を開催いたしますので多数参加ください。

一日時 三月二十四日 午前十時 三種目・会場

1 囲碁 川西町公民館
2 将棋 川西町公民館
3 麻雀 川西町役場会議室
三、フットダンス大会
二十四日夜七時 川西町公民館

注、川西町公民館は旧千手中学校
四、参加資格は川西町民に限る
(一月二十日の新春娯楽大会が豪華のため、延期になっておりました。詳細は広報かわにし一月号に掲載してありますからごらんください)

町の掲示板

町民娯楽大会

一月七日 微笑は人生を照らす日光である

町民娯楽大会は三月二十四日(日)に例年の町民娯楽大会を開催いたしますので多数参加ください。

一日時 三月二十四日 午前十時 三種目・会場

1 囲碁 川西町公民館
2 将棋 川西町公民館
3 麻雀 川西町役場会議室
三、フットダンス大会
二十四日夜七時 川西町公民館

注、川西町公民館は旧千手中学校
四、参加資格は川西町民に限る
(一月二十日の新春娯楽大会が豪華のため、延期になっておりました。詳細は広報かわにし一月号に掲載してありますからごらんください)



編集後記

三月を「やよい」という「弥生」は(いやよい)であらゆる草や木が春の陽をあびていよいよますますおひつ月の意味であるとか。当地の三月は(いやよい)にはほど遠く、ふかふかと雪にうずもれ、雪や霧の日も多いけれど、風のそよぎに日ざしにと「どこかで春が生まれる」とこの感じられる心楽しい季節でもあります。

春は遠からず、よりよき活動のための心とからだの準備はできたでしょうか。

今月から部落通信の欄の充実をめざして、元町の金子鉄平氏に寄稿をお願いいたしました。

町内のみならずもふるってご投稿ください。

野口寅夫
太田白南風選
野口寅夫
ご無沙汰のわびも加えて雪見舞
黒々と橋脚見ゆる冬の川
小白倉 江口 凡石
どの屋根も雪に埋まり二月過く
日焼けした顔の並べる学芸会
大倉 金子 洋石
春雪や軒に新割る袖の妻
雪山にほのかに朝の月残り
大倉 中条 夢人
春の日に分校のまどひらきたる
元町 金子 鉄平
燭細く埋もれし窓のねはん会
星名新田 渡辺